

国際病理アカデミー 日本支部

A NEWS BULLETIN 2006 Number 2

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

T. Morohoshi, M.D. (06)
Showa University

PAST PRESIDENT

R.Y. Osamura, M.D. (06)
Tokai University

PRESIDENT-ELECT

H. Hashimoto, M.D. (06)
University of Occupational and
Environmental Health

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (06)
National Defense Medical College

COUNCILLORS

H. Iwasaki, M.D. (06)
Fukuoka University

Y. Nakasato (06)

Gunma University

T. Manabe, M.D. (07)

Kyoto University

T. Sano, M.D. (07)

Tokushima University

M. Shimizu, M.D.(08)

Saitama Medical School

T. Nojima, M.D.(08)

Kanazawa Medical University

COMMITTEE CHAIR

Education, Chair

N. Nemoto, M.D. (06)

Nihon University

Education, Vice Chair

Z. Naito, M.D. (06)

Nippon Medical School

Finance

S. Nakamura M.D. (06)

Nagoya University

Nomination

R.Y. Osamura, M.D.(06)

Prof. Mark R. Wick, Prof. Morohoshi and Dr.
Maria in front of Nijubashi



SPU2006 開催される

日程は5月26日(金)から28日(日)で、Course Director は例年通りMaryland大学のSteven G. Silverberg教授と東海大学の長村義之教授が務めた。今年のテーマは、「Ovarian and Dermal Surgical Pathology」で、Facultyは上記の他、Virginia大学のMark R. Wick教授、慈恵医大の福永真治先生と東京医大の泉美貴先生にお願いした。2泊3日の合宿により、スライド鏡検を中心とした実習と解説が行われた。参加費はIAP会員が45,000円、非会員が55,000円で、宿泊費、会場費、食事代、事前の病理ガラススライド配付、当日のハンドアウトなどを含んでいる。今回は驚くほど参加人数が少なく日本からは34名で、アジアから4名、Faculty4名、IAP日本支部役員は長村、橋本、根本、内藤、松原が参加した。サクラファインテックジャパンから近藤さんをはじめ心のこもったお手伝いをして頂いた。今年のSPU2006では、Wick先生の配付皮膚標本の一部がたくさん薄切できないので、諸星先生にお願いしてバーチャルスライドのDVDを作成して頂き、参加者に事前に配布した。Silverberg先生の講義はすべてPower Pointとなりいつもながらの長い経験からの含蓄に富んだものでした。福永先生も素晴らしい標本を呈示され、難しい領域のトピックスを教えて頂いた。Wick先生も皮膚病理一般、メラノーマ、免疫組織化学の応用などについて、何度も講義されているのでしよう。大変完成された講義をされました。泉先生はFollicular neoplasmについて情熱をこめて素晴らしい講義をしてくれました。最近出版された「みき先生の皮膚病理診断ABC」(秀潤社)の宣伝をされました。アジアからの参加者は全員が女性で、

Dr. Enkhbat Bayarma (Health Science Univ., Mongolia)

Dr. Nantana Kaewpila (Srinakharinwirot Univ., Thailand)

Dr. Zanariah Alias (Ampang HP, Malaysia)

Dr. Suriati Mohd Yusoff (KL HP, Malaysia)の4人で、大変熱心に聴講されました。



Wick 先生は SPU の前日の 25 日に来日の予定が、何を勘違いされたか 26 日に来日され、当初の講義スケジュールを福永先生と入れ替えて頂きました。福永先生には迷惑をかけました。また Wick 先生のハンドアウトが教科書や journal の原稿のコピーそのままだったので、参加者からは講義内容そのものを欲しいとの意見が聞かれました。Power Point の配付資料という形で全部印刷してハンドアウトとすればいいのですが、大変な量の印刷となってしまいます。この点は問題が残ります。参加された方には、Wick 先生の分、何とか対処しようと考えています。

プログラムを記載しておきます。

Day 1 (Friday, May 26) Auditorium
 11:00- Registration
 11:30-13:00 Lunch
 13:00-13:10 Opening Remark (R.Y. Osamura, M.D.)
 13:10-14:30 Ovarian Neoplasms: Carcinoma (S. G. Silverberg, M.D.)
 14:30-15:00 Coffee
 15:00-16:00 Atypical Ovarian Endometriosis: its Clinicopathologic Significance (M. Fukunaga, M.D.)
 16:00-17:00 Borderline Tumors of the Ovary (S. G. Silverberg, M.D.)
 18:30- Dinner and Reception
 Day 2 (Saturday, May 27) Auditorium
 09:00-10:00 Dermatitides and Dermatoses: A Practical Diagnostic Approach (M.R. Wick, M.D.)
 10:00-10:30 Coffee
 10:30-12:00 Slide seminar: Ovarian Surgical Pathology (6 cases) (S. G. Silverberg, M.D.)
 12:00-13:30 Lunch
 13:30-14:30 Melanocytic Neoplasms of the Skin: Selected Problem Areas (M.R. Wick, M.D.)
 14:30-15:30 Applied Immunohistochemistry in Neoplastic Dermatopathology (M.R. Wick, M.D.)
 15:30-16:00 Coffee
 16:00-17:00 Follicular Neoplasms: Based on Embryological and Histological Aspects of the Hair Follicle (M. Izumi, M.D.)
 17:00-19:00 Consultation Cases (Ovarian, Dermal and General SP) with Faculty
 19:00- Dinner
 Day 3 (Sunday, May 28) Auditorium
 08:30-10:00 Slide Seminar on Dermatopathology (6 Cases) (M.R. Wick, M.D.)
 10:30-11:30 Metastatic Carcinoma of the Ovary (S. G. Silverberg, M.D.)
 11:30-11:45 Summary of SPU20005 (S. G. Silverberg, M.D.)
 11:45-11:55 Closing Remark (O. Matsubara, M.D.)
 12:00- Adjourn (see you next year)

終了後のアンケート結果 :回答数は 26 名。

	Scale	1	2	3	4	5	6	7	
Course materials:									
Handouts	Poor	1	3	5	7	6	4		Excellent
Projected materials	Poor				7	11	8		Excellent
Information content:									
Amount	Too little		12	5	8	1			Excellent
Timeliness	Outdate	2	2	8	10	4			Excellent
Pract. val.	Useless	2	1	6	8	9			Useful
Overall satisfaction:									
Disappointed		1	3	6	9	7			Fully satisfy.



SPU2006 を行うに当って、次の協賛企業に大変お世話になりました。ここに改めて御礼を申し上げます。

Mainly sponsored by
 サクラファインテックジャパン(株)
 Jointly sponsored by
 第一製薬株式会社
 (株)臨床病態医学研究所シーアールシーグループ
 株式会社文光堂
 ゼリア新薬工業株式会社
 帝人ファーマ株式会社
 三菱ウエルファーマ株式会社
 エーザイ株式会社
 株式会社福岡研明社

オリンパス株式会社
岩井化学薬品株式会社
三共株式会社

なお、次回の SPU2007 は 6 月 22-24 日に Dr. S.G. Silverberg, Dr. Henry Appelman を迎え、婦人科と消化管の外科病理がテーマとなる予定です。

第 2 回理事会の議事録

日時：平成 18 年 4 月 30 日 (日) 11:10? 12:10
京王プラザホテル 本館 42 階「武蔵」

議題について

報告事項：

1. 秋の教育セミナー関係
2. Surgical Pathology Update (SPU) 2006
3. XXVI International Congress 100th Anniversary, Montreal

4. 台湾支部からの提案の手紙
5. その他、なし

審議事項：

1. 秋の教育セミナー関係
2. スライドセミナー
3. 教育シンポジウム
4. 日本台湾スライドカンファレンス
5. 牛込 Memorial International Symposium の開催の可能性、審議継続
6. Award Committee から
7. IAP 本部役員への nomination、長村 Vice-President 推薦
8. その他
9. 次回の理事会 (平成 18 年度第 3 回) 秋の病理学会第 1 日目のお昼。11 月 23 日

XX

2006 年度病理学教育セミナー? のお知らせ

IAP 日本支部主催、日本病理学会後援

XX

日時：平成 18 年 11 月 25 日 (土) 9:00? 17:15

場所：和歌山県立医科大学

(和歌山市紀三井寺 811-1)

世話人：覚道 健一

(和歌山県立医科大学・病理学第 2 講座教授)

教育シンポジウム 9:00? 12:00

今回の教育シンポジウムは、最近話題の前立腺癌の診断について、生検標本の Gleason score や最近のトピックスを含めて、病理診断業務において役に立つ内容を白石先生に企画していただきました。

主題：前立腺生検標本の Gleason score

モデレーター：白石 泰三 (三重大学)

1. 泌尿器科医は Gleason score をどのように利用しているか 内田 克典 (三重大学)
2. 前立腺針生検標本の鏡検・診断方法と鑑別診断 鷹橋 浩幸 (東京慈恵会医科大学)
3. Gleason 分類の歴史的変遷と今後の課題 原田 昌興 (神奈川県立がんセンター)
4. 2005 年 consensus conference による Update Gleason score について 都築 豊徳 (名古屋第二赤十字病院)
5. 症例供覧 一般病理医間で再現性の低い症例を中心に 小塚 祐司 (三重大学)
6. 総合討論

当日はご自由にご参加下さい (会場費 3,000 円、ハンドアウト代含む)。その時に病理専門医の更新に必要な参加証をご用意いたします。5 単位が得られます。

スライドセミナー?

1 時限目 13:00? 15:00

- *A-1 軟部腫瘍 橋本 洋 (産業医科大学)
- B-1 乳腺疾患の病理 秋山 太 (癌研究所乳腺病理)
- C-1 非腫瘍性リンパ節病変 小島 勝 (群馬県立がんセンター臨床検査部)
- D-1 子宮の腺系病変・診断の pitfall 清川 貴子 (慈恵医大病理学)

2 時限目 15:15? 17:15

- *A-2 皮膚付属器腫瘍 清水 道生 (埼玉医科大学)
- B-2 腎・尿路病変の病理 金城 満 (新日鐵八幡記念病院病理部)
- C-2 上部消化管の腫瘍性病変 二村 聡 (福岡大学医学部病理学)
- D-2 肝臓の小結節性病変の病理 中沼 安二 (金沢大形態機能病理学)

*印は新規のものです。

病理専門医の資格更新単位として 10 単位が得られます。受講料：1 コース IAP 日本支部会員 6,000 円、非会員 8,000 円です。

和歌山県立医大覚道先生のご好意でお世話になります。素晴らしい設備です。新幹線新大阪駅から特急で和歌山駅へ、or 関西国際空港からリムジンバスで和歌山駅が便利です。和歌山駅からだどバス「医大病院」行きで約 25 分、JR 紀三井寺駅まで二駅でそこからだど歩いて行けます。



「IAP 日本支部 病理診断学術奨励賞」公募

IAP 日本支部では 2006 年の「IAP 日本支部 病理診断学術奨励賞」を公募します。

記

賞の名称：IAP 日本支部 病理診断学術奨励賞
受賞資格：日本の医療機関に勤務する若手 (論文掲載時点で 40 才未満) の病理医 (IAP 日本支部の会員か否かは問わない)

選考対象 2005年01月から12月の間に雑誌に公表された診断病理分野における優れた英文業績(1編)。英文業績のFirst authorを原則とする。

受賞者数:最大3名

賞:賞状と副賞10万円

応募方法

自薦、他薦とも可とする(推薦者がなくても受け付ける)。

提出のもの:

- 1)応募者および推薦者の所属、氏名を記す。
- 2)応募者については生年月日および年令を記す。加えて簡単な履歴書を添えて下さい。
- 3)推薦者は推薦理由を、自薦の場合は応募理由を記した手紙(書式は自由、ただA4用紙で2枚以内)
- 4)論文の別刷 7部(コピーも可)

応募締切:2006年9月15日(当日消印有効)

宛先:〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2講座 IAP 日本支部事務局気付、IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞係、松原 修あてに

選考方法 発表

IAP 日本支部の指名するIAP 日本支部・病理診断学術奨励賞選考委員会(日本病理学会、日本臨床細胞学会から外部委員が参加)にて選考し、秋のIAP 日本支部年次総会およびIAP 日本支部のNews Bulletin 紙上、加えて日本病理学会、日本臨床細胞学会の機関誌にて発表する。受賞者はIAP 日本支部年次総会の場で行われる表彰式にご出席下さい。

日本 台湾スライドカンファレンス

日韓スライドカンファレンスと同じようなものを台湾との間とも開催してみてもどうかとかが、ここ2-3年話されてきました。台湾支部発足の時に牛込本部長、事務局もアドバイスした縁もありました。橋本次期会長とIAP 台湾初代会長のDr. Kuo との話、AtlantaでのUSCAPで長村前会長、松原とDr. Ying-Tai Jin (National Cheng Kung University)とも相談しました。理事会でも今年の秋くらいに第1回をと検討してきました。台湾側からも11月の中旬はどうかと言っています。今のところ11月18日(土曜日)で調整をしているところです。17日(金)にでかけ、18か19日に帰国といった予定を考えています。正式に決まりましたらまたご報告しますが、是非皆様のご参加をお願いしたいと考えています。

各種の学会案内

Tokyo Satellite Symposium

国際顕微鏡学会 IMC16 サテライトシンポジウム

特別企画 病理診断シンポジウム

Gown & Osamura

"Diagnostic Immunohistochemistry & Molecular Pathology"

? 病理診断国際セミナー "免疫組織化学と分子病理" UPDATE?

代表世話人 長村 義之(東海大学医学部基盤診療学系病理診断学教授)

期日 2006年9月2日(土) 午前10時?午後18時

会場 シェンバツハ・サボー(砂防会館別館 B3F 六甲)

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 TEL 03-3261-8390

参加費 5,000円(ハンドアウトを含む)

Allen Gown, MD(Phenopath Lab, Seattle, USA)

Immunohistochemistry-1

Immunohistochemistry for primary and metastatic tumor diagnosis.

Immunohistochemistry-2

Oncodiagnostics for molecular targeted therapy.

Jeniffer Hunt, MD(Cleveland Clinic, Cleveland, USA)

Molecular Pathology-1

How to run diagnostic molecular pathology laboratory?

Molecular Pathology-2

Use of molecular pathology techniques in tumor diagnosis.

Suat-Cheng Peh, MD(University of Malay)

Molecular & Immunohistology of Asian malignant lymphoma.

Robert Y. Osamura, MD(Tokai University, JAPAN)

Immunohistochemistry and Molecular Pathology of Neuroendocrine tumors(NETs).

事務局(問い合わせ先) 東海大学医学部 教育・研究

支援センター 担当:伊東 丈夫

〒259-1193 神奈川県伊勢原市望星台

TEL 0463-93-1121(内線2581) FAX 0463-91-1370

E-Mail itohj@is.icc.u-tokai.ac.jp

IAP XXVI International Congress

100th Anniversary

September 16-21, 2006

montreal, Quebec, Canada

www.iap2006.com

2006 病理診断セミナー

2006年10月21-22日、東京医科大学病院、問い合わせ先:東京医大病理診断学講座 向井 清 kmukai@tokyo-med.ac.jp

主題は Current Topics in Diagnostic Pathology

第5回東京泌尿生殖器病理組織講習会

2007年1月19-21日、東京慈恵医大西新橋校、問い合わせ先:慈恵医大病理 中野雅貴 mnakano@jikei.ac.jp

主題は前立腺・膀胱・精巣腫瘍と非腫瘍性疾患。鏡顕、フリーディスカッション、CD-R配布、飛び込み consultation 受付。

講師および指導医: The Johns Hopkins Hospital, Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。

Department of Pathology の Professor J. Epstein, Armed Forces Institute of Pathology の Genitourinary Department, Chairperson の Dr. I. Sesterhenn, スウェーデン Karolinska Hospital の Professor L. Egevad, Wayne State University の Professor. D. Grignon, 国内からは前杏林大学病理学教室 教授 古里征国, 東京慈恵会医科大学病理学講座講師 鷹橋浩幸, 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授 頼川晋, 三重大学病理学第二講座教授 白石泰三, 名古屋第二赤十字病院病理部部長 都築豊徳, 京都大学医学部助教授 三上芳喜らが講師および指導医として参加。